法華宗信報

Hokkeshu Shinpoh

NO.147
お盆号
平成27年7月1日
【発行】法華宗宗務院

つなぐ

今あることを感謝して

CONTENTS

2 亡き人に対面する文化を大切に　石田日信猊下
4 御遠忌法要　写真レポート
6 忘れぬ思い　ー戦後 70 年を迎えー
8 元気のサプリ・マンガ「光くん日記」・編集後記

大本山光長寺　三聖人御遠忌法要奉修

亡き人に対面する文化を大切に

大本山光長寺貫首
石田（いしだ）日信（にちしん）

四月五日六日光長寺は開基日春聖人、法運中興日隆聖人・日朝聖人の御遠忌法要を営んだ。テレビの天気予報は連日大雨注意の傘マーク。寺務所では使い捨てコーモリを何百本・防雨シートはどう張るんだと大変でした。

ところがどうでしょう、五日は午後ひととき、ポツと霧雨、写真撮影はとり止めましたが行事進行には支障無くお逮夜法要まで無事終了。明けて六日は穏やかに快晴、行事にあたって天気をいただくということは有難いことです、皆様の心が諸天に通じたのでしょうか。六日「二十八紙大曼荼羅（だいまんだら）様」を開展して国祷会の折には、満開の桜がはらはらと花吹雪「曼荼羅華（まんだらけ）をふらして仏および大衆に散す」と嘆声が上がる感激でした。二日間、三千人近いご参詣をいただきました。きっと三聖人が皆様に「よく来てくれたありがとう」と賜った天候だったと感謝万感です。信報紙上を借りて御礼申し上げます。

信徒の方から「御遠忌って御年忌ですよね、私たち何年までやればいいんです

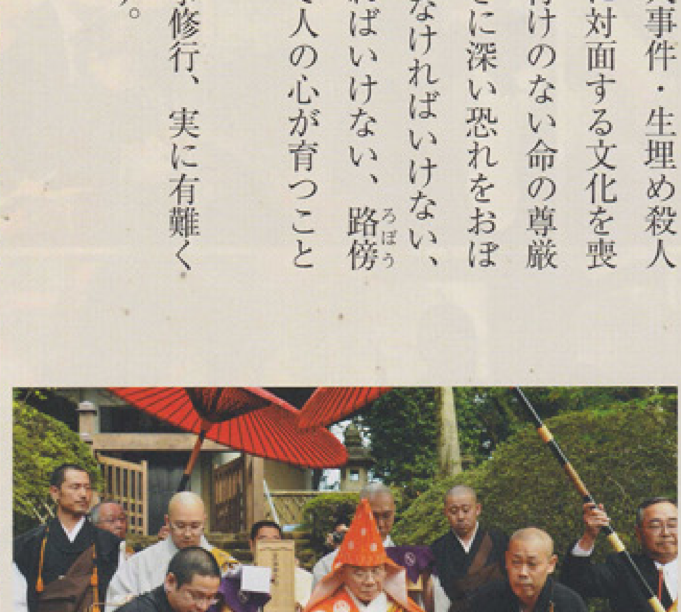
か」と聞かれる。年忌法要という行事は中国思想の影響を受けて成立したものだと云われもする。何民族の影響を受けたものであろうと、善い行いは善い行いである。年忌があり盆があり彼岸がある。日本仏教が育んだ行事として何れにも「亡き人に対面する」という通底する行為がある。

　その人その人、その時その時、思いはさまざまであろうが、亡き人に対面することは **死** に対面すること、**死** に対面することは **生** に対面すること **命** に対面することです。年に幾日か何年に一日でも、そのような色の濃い日々の中に身を置くということは貴重なことです、すばらしい文化です。

　クリスマスでもハロウインでも取り込んでセールにしてしまうのが現代思潮、盆も彼岸も限り無く連休の一日でありレジャーです。消費拡大の名の下に経済至上の風潮をリードするのが我が国の政治です。これではいけない、反省の声を上げるのが法華宗です。

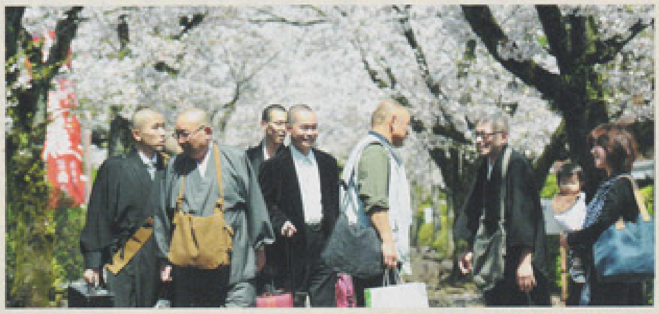
　カッターナイフ殺人事件・生埋め殺人事件の報道を前に死に対面する文化を喪失し、罪の意識の裏付けのない命の尊厳を声高に叫ぶ愚かしさに深い恐れをおぼえます。盆を大切にしなければいけない、年忌を大切にしなければいけない、路傍（ろぼう）にお題目の塔があって人の心が育つことを銘記します。

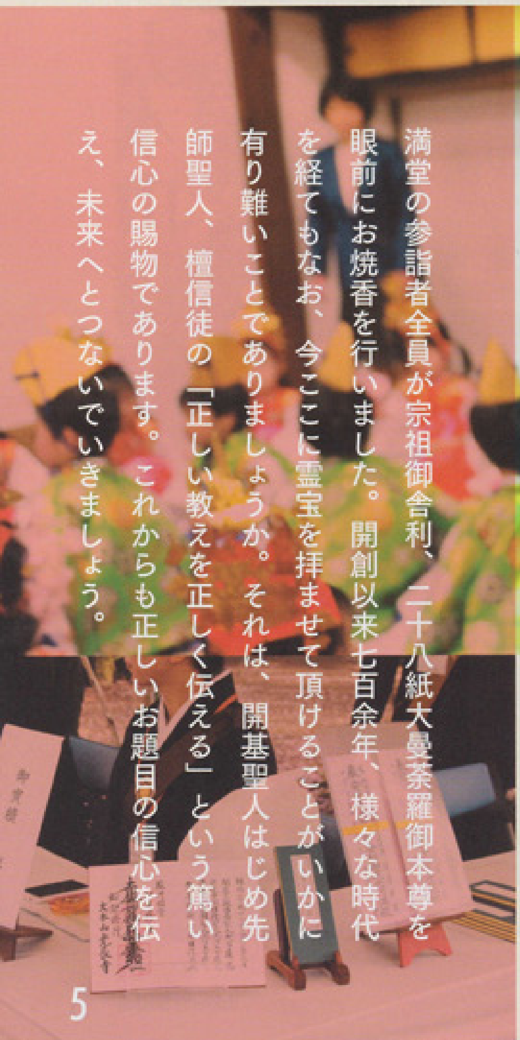
　三聖人の御遠忌無事修行、実に有難く御礼謝辞といたします。



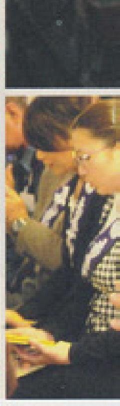
大本山光長寺 三聖人御遠忌法要奉修

連日続いた春の長雨も四月六日にはすっかり晴れ渡り、暖かな日差しのなか降り注ぐ桜の散華が多くの参拝者を出迎えました。法要を写真でふり返ります。





満堂の参詣者全員が宗祖御舎利、二十八紙大曼荼羅御本尊を眼前にお焼香を行いました。開創以来七百余年、様々な時代を経てもなお、今ここに霊宝を拝ませて頂けることがいかに有り難いことでありましょうか。それは、開基聖人はじめ先師聖人、檀信徒の「正しい教えを正しく伝える」という篤い信心の賜物であります。これからも正しいお題目の信心を伝え、未来へとつないでいきましょう。



忘れぬ思い

―戦後七十年を迎え―

戦後七十年、いまだ七十年しか経ていないにもかかわらず、まるで遠い昔に遠くの国で起きた出来事であるかのような感覚を受けるのはなぜでしょうか。大戦の犠牲者は三百万人を越え、沖縄では島民の四分の一が、はるか南方では海に島に若き青年が次々と亡くなりました。広島・長崎に投下された原子爆弾、東京大空襲はじめ各地方都市に降り注いだ焼夷弾の炎は、老幼の差別なく大勢の命を奪いました。戦争によってどれほどの悲しみ、苦しみが生まれたのでしょうか。

「焼け野原」という安易な言葉で表現されるすさまじい戦禍は忘却の彼方、今ある大都市の礎を作ったのは何でしょうか。日本人の忍耐力や勤勉さはもちろんでしょう。しかし、そのアスファルトの下には国のため、家族のためにと犠牲になっていった兵士の血、恐怖のなか焼死した子供の夢、あるいは未亡人の汗や遺児の涙があるのです。その尊い命、犠牲の上に現在の繁栄があるということ、確かにそこにあった悲惨な現実と彼らの思いを忘れてはなりません。そして、感謝の気持ちを込めたご供養を続けるべきでしょう。戦後七十年を迎え、次第に戦争体験者は少なくなり記憶が薄れていく今、戦没者供養を続けている光長寺八品講を中心にご紹介いたします。

大本山光長寺の近隣には幕末の頃に組織された東組と西組の八品講があります。（光長寺、蓮華寺を中心とした東組、妙泉寺の講組織を中心とした西組）光長寺の大法要等に参加するだけでなく、近隣の各地区が、それぞれの公民館などで修行する「大題目講」という行事があります。そこで戦没者の供養を行うのですが、戦争と言っても大東亜戦争だけでなく、百年以上前の日清・日露戦争の犠牲者をも供養し続けているのです。異体同心に一生懸命お題目をお唱えする仲間ほど素晴らしいものはありません。できる限り後世に伝えて頂きたく、今回はこの「大題目講」について東組八品講員の方々にお話を伺いました。

毎年たくさんの人が公民館に詰めかける岡宮地区の「大題目」。中央の大太鼓は八品講にて購入したもの。

「大題目講」は一月下旬から三月中旬にかけて岡宮・岡一色・北小林・上石田・竹原・下長窪・上長窪・元長窪の八地区を順番に廻ります。当日は昼食を挟んで法要を三座行いますが、二座目にその地区で戦死した英霊の法要をします。地区の英霊のために他宗派の檀信徒さんも一緒にお題目をお唱えし、供養を捧げるところに「大題目講」の大きな特徴が有ると思います。皆さん熱心な方が多く熱気にあふれています。昔はある程度大きな家を借りて行っていま

各地区とも多くの御曼荼羅を掲げ、ご宝前を設置する。供えられた、こぼれんばかりのお団子から供養のこころが伝わる。

した。どの地区も農家が多くて五十人くらいが入ることができる家は少なく、新築された家のお披露目をかねて祈祷題目をあげてもらいました。同時に「大題目講」を行いました。昔は情報を共有する場も無く、「大題目講」が情報交換の場であり、一種の社交の場でもありました。しかし、近年は台所での調理等の問題で公民館を借りるようになりました。場所が変わっても、私たちにとっては「大題目講」でお経をあげ、お題目をお唱えすることがとても大事なことなのです。（顧問・村田勝一様　会長・山本吉明様）

　岡一色地区では「大八品講（大題目講）」の他にも「小八品講」「農閑八品講」と年三回題目講を開いています。御本山のお膝元ということもあり、皆さん熱心な方々ですので助かっています。（岡一色地区副会長・野秋安子様）

　竹原地区では、三年ほど前に公民館が使えなくなると言われ、人数も少なくなり解散かというときに石田日信猊下からお話を頂き、浄泉寺さまで開催することができました。（過去に解散した地区もある）本堂には八品講の御本尊を何幅もかけられる装置をつけて頂きました。年ごとに人数が増えているのが有り難く、これもお題目のおかげかなと思っています。私は今年九十一歳になりますが、毎年各地区の「大題目講」に参加しています。今年も皆様の元気な姿を見られ、本当に有り難いことだと思っています。（竹原地区役員・下山ともゑ様）

小立地区慰霊祭の様子
忠魂碑の御前にて戦没者への題目供養

全国各地で戦没者の慰霊祭などが行われていますが、富士山の麓、山梨県富士河口湖町の小立地区・勝山地区においても毎年五月、戦没者の慰霊祭が営まれています。小立・妙法寺の境内に建つ忠魂碑の前に多くの塔婆を供え、小立遺族援護会主催のもと、ご遺族はじめ地域の各要職の方々、消防の方々が参列して行われます。この地域には法華宗の寺院が隣接しており、住民の多くが法華の信者ということもあって、お題目による供養が戦後すぐから行われてきました。最近では遺族の高齢化もすすみ、戦争の記憶が薄れていく中、子から孫へと参加者の顔ぶれも年々変化しています。供養と共に戦争の記憶を後世に伝えていかなければなりません。

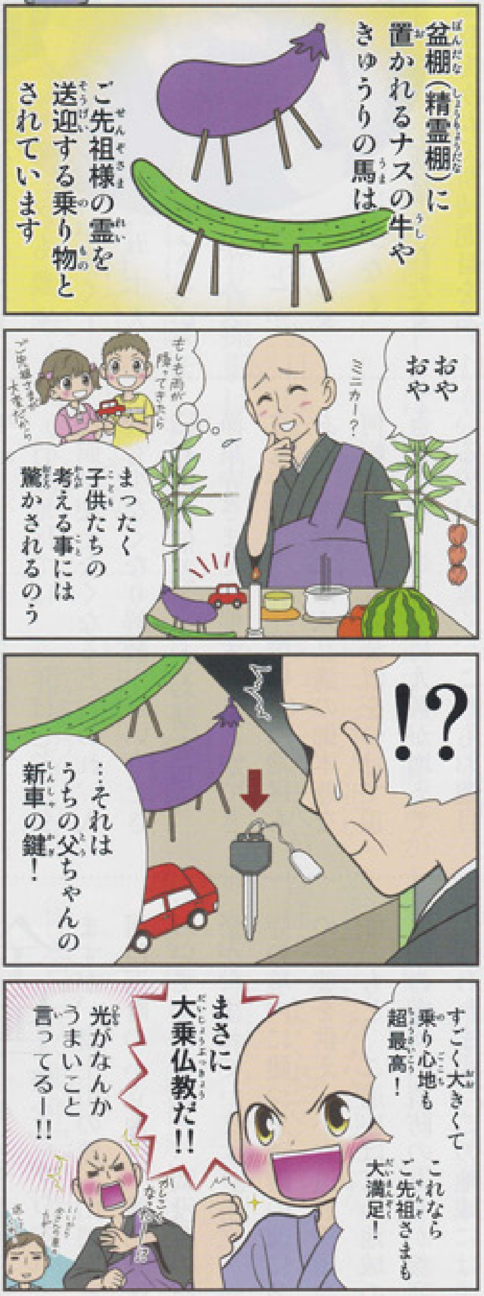
慰霊祭だけではない、戦争によって死に別れたご主人を何十年も供養し続けてこられた方も多いでしょう。今も忘れ去られることなく、名を呼ばれ、写真を掲げられ、たくさんのご供物と温かいこころ、何よりありがたいお題目をもって供養を頂ける故人はどれだけ幸せでしょうか。次の世代に伝えるべく、亡くなられた尊い命を思い続け、方々の事をも忘れてはいけないと思います。

　絶やしてはいけない、忘れてはいけないことでしょう。戦没者を弔い供養し続けてこられた方々を見習い、そこに尊い命が確かにあったということを決して忘れないで下さい。そして、これから先もずっと戦没者に心からのご供養が届くことを願ってやみません。

小立地区にある妙法寺・常在寺の僧侶が合同で営む慰霊法要

光くん日記 第4話

漫画・きよ



元気のサプリ その3

著者：三船美也子（健康運動指導士）

暑さの厳しい季節となりました。夏の高温多湿はからだを動かす事がおっくうに感じますが、涼しい部屋で座ってばかりも良くありません。筋肉を動かす事は汗をかきやすいからだを作ります。汗をかくことは体内の不要物排泄、体温調整を担っています。これらの機能がうまく働かなくなると腎臓への負担も増え悪循環です。暑い季節は「熱中症予防と対策」に気をつけながら、からだを動かしましょう。

熱中症患者のおよそ半数は65歳以上の高齢者です。高齢者は水分不足に対する感覚機能や暑さに対するからだの調整機能も低下しており、特に注意が必要です。暑さの感じ方は人によって異なりますが、屋外では日陰を選び、室内では扇風機やエアコンを上手に利用して暑さを避け、のどの渇きを感じなくともこまめに水分補給することを心がけましょう。その際、高濃度の砂糖や塩分が含まれている飲料は吸収までの時間が長く注意が必要です。また、アルコールや多量のカフェインを含む飲料は、尿の量を増やし体内の水分を排泄してしまうので水分補給としては適しません。冷たいビールやジュースを飲みすぎてしまうと逆効果ということになりますね！からだを活発に動かす時は早朝や夕方などの涼しい時間帯を利用すると良いでしょう。

≪夏におすすめのストレッチ≫

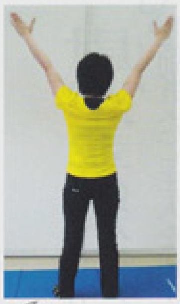
腿の裏側や肩甲骨周りをほぐしてスッキリ。うだるような暑さを乗り越えましょう！

①リラックスして片方の膝を両手で抱える。

②息を吐きながら反動をつけずに脚を伸ばす。

～ポイント～
●肩や首はリラックス
●お尻が床から浮かないところまで脚を伸ばす
●両手が脚に届かなければ、膝を伸ばすだけでもOK

①足は肩幅に開き、息を吸いながら両手を伸ばす。



②背中の中心へ肩甲骨を引き寄せるように、息を吐きながら両腕を下に引く。

～ポイント～
●肩をすくめない　●腰をそらさない

編集後記

一年は早いもので、もうお盆の時期となりました。

このお盆号では、大本山光長寺さまの三聖人（日春・日隆・日朝）御遠忌特集を組んでおります。四月五日・六日の法要にお参り頂いた方も、そうでない方も楽しんで読んで頂けたら幸いです。また本年は戦後七十年にあたります。改めて戦没者への追善供養の思いを強く持ち、お盆をお迎えしたいと思います。

法華宗信報 No.147

平成27年7月1日発行　発行人／二瓶　海照　　編集人／中臣　智要

編集部／〒403-0006　山梨県富士吉田市新屋242　雪松院気付遠妙院教会内　TEL 0555-24-2068

発行所／〒103-0013　東京都中央区日本橋人形町2－19－1　法華宗宗務院　TEL 03-5614-3055

印　刷／YEBISU LLC